

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)一宮市八幡四丁目計画	階数	地上14階
建設地	愛知県一宮市八幡四丁目1-36	構造	RC造
用途地域	工業地域 準防火地域	平均居住人員	918 人
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工時期	2026年9月 予定	評価の実施日	2024年5月28日
敷地面積	7,590 m ²	作成者	上田
建築面積	1,505 m ²	確認日	2024年5月30日
延床面積	15,784 m ²	確認者	萩山

(外観ベース) 等を添付すること



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 2.0 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	★☆☆☆☆ 30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★ 標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 52% ③上記+②以外の 52% ④上記+ 52% (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q のスコア = 3.3		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.9	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.6
LR のスコア = 3.8		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

3 重点項目	
①地球温暖化への配慮 4.9	③敷地内の緑化 1.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 13.3 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用 3.1	④地域材の活用 1.0 <外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
【仮称】一宮市八幡四丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

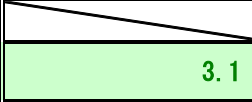
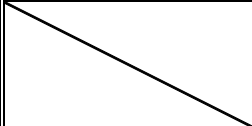
スコアシート		基本設計段階											
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
		重点項目				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質													3.3
Q1 室内環境								0.40			-		3.9
1 音環境						0.1	3.0	0.15	3.1	3.1	1.00		3.1
1.1 室内騒音レベル						3.0	3.0	0.50		3.0	0.50		
1.2 遮音						0.5	3.0	0.50		3.3	0.50		
1 開口部遮音性能			Dr-50以上				3.0	1.00		3.0	0.30		
2 界壁遮音性能							3.0	-		4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0	-		3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0	-		3.0	0.20		
1.3 吸音							3.0	-		3.0	-		
2 温熱環境						0.3	2.0	0.35	5.0	5.0	1.00		4.7
2.1 室温制御						0.5	3.0	0.50	5.0	5.0	1.00		
1 室温			エアフローウインドウの採用			3.0	3.0	0.63		-	-		
2 外皮性能						3.0	3.0	0.38		5.0	1.00		
3 ゾーン別制御性						3.0	3.0	-		-	-		
2.2 湿度制御						3.0	1.0	0.20		-	-		
2.3 空調方式						3.0	1.0	0.30		-	-		
3 光・視環境						0.2	2.7	0.25	3.5	3.5	1.00		3.4
3.1 昼光利用						0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.50		
1 昼光率			十分な開口面積を確保している			3.0	3.0	0.60		5.0	0.50		
2 方位別開口								-		3.0	0.30		
3 昼光利用設備						3.0	3.0	0.40		3.0	0.20		
3.2 グレア対策						0.3	2.0	0.30	3.0	3.0	0.50		
1 昼光制御						5.0	2.0	1.00		3.0	1.00		
3.3 照度						3.0	3.0	0.15		-	-		
3.4 照明制御						3.0	3.0	0.25		-	-		
4 空気質環境						0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00		3.6
4.1 発生源対策						0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63		
1 化学汚染物質			合板、フローリング等 F☆☆☆☆を利用			3.0	4.0	1.00		4.0	1.00		
4.2 換気						0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38		
1 換気量						3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
2 自然換気性能						3.0	3.0	-		3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
4.3 運用管理						-	-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視						3.0	3.0	-		-	-		
2 喫煙の制御						3.0	-	-		-	-		
Q2 サービス性能								0.30		-	-		3.4
1 機能性						0.4	3.0	0.40	4.2	4.2	1.00		4.1
1.1 機能性・使いやすさ						0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60		
1 広さ・収納性			各住戸に1Gbpsクラスのインターネットサービスを整備			3.0	-	-		-	-		
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	-		5.0	1.00		
3 バリアフリー計画		独自				3.0	3.0	1.00		-	-		
1.2 心理性・快適性						0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.40		
1 広さ感・景観 (天井高)						3.0	3.0	-		3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-		-	-		
3 内装計画						3.0	3.0	1.00		3.0	0.50		
1.3 維持管理						0.3	3.0	0.30	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計						3.0	3.0	0.50		-	-		
2 維持管理用機能の確保						-	3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性						0.3	3.1	0.31	-	-	-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.0	0.48	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	3.0	0.80		-	-		
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.5	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			コンクリートの評価方法基準等級3相当			-	5.0	0.23		-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						-	3.0	0.23		-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						-	3.0	0.09		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						-	3.0	0.08		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用			-	5.0	0.15		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔						-	2.0	0.23		-	-		
2.4 信頼性						0.1	2.8	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備						3.0	3.0	0.20		-	-		
2 給排水・衛生設備						3.0	2.0	0.20		-	-		
3 電気設備						3.0	3.0	0.20		-	-		
4 機械・配管支持方法						3.0	3.0	0.20		-	-		
5 通信・情報設備						3.0	3.0	0.20		-	-		

3 対応性・更新性			0.2	2.8	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			-	-	-	2.6	2.6	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	2.0	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	2.8	1.00		-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	2.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			1.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	4.0	0.40		-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.8
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.8	3.0	5.0	0.33		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.71	3.0	5.0	0.33		-	-	5.0
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	-		-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.4
1 水資源保護			0.1	2.2	0.15		-	-	2.2
1.1 節水			3.0	1.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.4	0.63		-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②		-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	住戸内の下地にエコマーク商品の木質ボードを使用。	3.0	3.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	RCの躯体に対して木軸を介して仕上げを行う	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.3	0.22		-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない建材種別を4つ以上使用	3.0	5.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68		-	-	
1 消火剤			-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		吹付けウレタン、ポリスチレンフォームともにODP=0	-	5.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率52%	-	4.9	0.33		-	-	4.9
2 地域環境への配慮			0.3	2.4	0.33		-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.7	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動	独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-		-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		広告物照明を行っていない。光害対策チェックリストの一部を満たす。	-	4.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート
(仮称)一宮市八幡四丁目計画

基本設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				4.9	
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.9	0.10		
② 資源の有効活用					3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19		
③ 敷地内の緑化				1.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:13.3%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)一宮市八幡四丁目計画

計画上の配慮事項	
総合	有害性が低く、耐用性に優れた建材を用いる計画とし、温熱環境や省エネルギー性に配慮することで、長期的に有効な住環境を得られるよう努めた。
Q1 室内環境	室内環境の向上を目指し、F☆☆☆☆建材を使用している。 また、断熱性能を等級4とし、温熱環境の向上に努めた。
Q2 サービス性能	Gbitクラス的高速インターネット設備を完備し機能性の向上を図った。
Q3 室外環境(敷地内)	出来る限り緑地帯を設け、工業地域に建つ住宅環境に配慮した。
LR1 エネルギー	日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たす予定。
LR2 資源・マテリアル	内装材において、ホルムアルデヒドの発散量の少ない接着剤等を採用し、汚染物質含有材料の使用の回避に努めた。
LR3 敷地外環境	躯体の長寿命化や設備機器の省エネ化によりライフサイクルCO2排出量を参照値より抑制し、地球温暖化へ配慮した。
その他	